議長記者会見資料

「存在する議会」から
「機能する議会」へ向けて

2022（令和4）年６月20日（月）

飯田市議会

地方議会評価モデル導入の動機付け

「議長レポート」と「地方議会評価モデルキック・オフ講演会」

「議長レポート」

- 市民の福祉の向上に資する市議会であるか、今一度立ち止まって考える
- チーム飯田市議会（議員の連合体と議会事務局）として地域経営に責任を持つ
- 過去を振り返り、これからの10年を見据え前に進む議会
- 議会改革・運営ビジョンの課題解決のために、「身体検査」＝地方議会評価モデルの導入

江藤先生によるキック・オフ講演会

江藤俊昭 座長

- 何故今、地方議会評価モデルが必要か
- 地域経営全体に議会が関わり、議会が決める
- 機関として政策サイクルを回している議会が作動しているか
- 良き政策提言ができるためには、良き組織でなければならない
- 議会を議事機関として捉え、議会運営（マネジメント）の包括的な能力を評価する

我々は、今どこにいるのか
ここからどこに行きたいのか
どうやってそこに行きたいのか
我々は、地図を持っているのか

劇中の架空の政治家の言葉/イギリス

地方議会評価モデルの実施

自治基本条例検証会議で培った全議員参加型の場づくり

体制づくりと進め方

【平成24年当時】

- 自治基本条例検証会議
- 全議員参加・3グループ編成
- リーダー・サブリーダー会議・全体会
- 議会制度検討委員会
- 検証結果の実現方策等の検討
- 議会改革・運営ビジョンの策定
- 議会改革推進会議の設置と進行管理

【これから】

- （仮称）議会評価モデル会議
- 全議員参加・３グループ編成
- リーダー・サブリーダー会議・全体会
- 議会改革推進会議において集約
- 議会プロフィール・ビジョン見直し案作成
- 議会プロフィール・ビジョン等の公表
- 議会改革推進会議による進行管理

地方議会評価モデルの実施

地方議会評価モデルの取組体制

（主管）議会改革推進会議

【役割・機能】

- 地方議会評価モデルの進行管理
- 議会内外への情報発信
- 研究会の「実装の場」としての課題等の取りまとめ

【担当】

◎委員長　古川 仁
〇副委員長　永井 一英
事務局

（運営）地方議会評価モデル運営プロジェクト

【役割・機能】

・地方議会評価モデルの企画運営
・リーダー・サブリーダー会議の運営管理
・日本生産性本部との連絡・連携

【担当】

★アドバイザー　井坪 隆
◎チーフ　古川 仁
〇統括（PJﾏﾈｰｼﾞｬｰ）永井 一英
事務局

リーダー・サブリーダー会議

【役割・機能】

- グループ討議の進行役と意見集約／事務局との事前打ち合わせ
- 「議会プロフィール素案」の取りまとめと素案の一本化
- グループ討議における進行管理
- グループ間の情報共有とスケジュール調整など

【担当】

A班	B班	C班
◎リーダー 小林 真一	◎リーダー 清水 優一郎	◎リーダー 岡田 倫英
〇サブリーダー 市瀬 芳明	〇サブリーダー 佐々木 博子	〇サブリーダー 下平 恒男
事務局	事務局	事務局

地方議会評価モデルの実施

リーダー・サブリーダー会議と全体スケジュール

「リーダー・サブリーダー会議」の特徴

- リーダーとサブリーダーは、会派の枠を越えて、1期目・2期目の議員により構成
- 円滑に運営していくための申し合わせ事項を確認。意見集約のため必要に応じて会議を開催
- グループ討議においては、議員同士の「対話」を重視。各メンバーが発言しやすい雰囲気に配慮

全体スケジュール

- グループごとオリエンテーション→議員個人による「議会プロフィール」の作成→グループ討議→各グループ集約→市議会としての「議会プロフィール」を決定→議会報告・意見交換会において説明し、市民からの意見聴取→必要に応じて修正 【4月から10月までの間】
- グループごとオリエンテーション→議員個人による「成熟度評価」→グループ討議→各グループ集約→市議会としての「成熟度評価」のまとめ→「議会プロフィール」との調整 【10月から翌年3月までの間】
- 「議会プロフィール」と「成熟度評価」に基づく、議会改革・運営ビジョンの見直しとロードマップ作成・公表 【翌年の3月ないしは4月】

地方議会評価モデルの実装の場

地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会との関係性

評価モデル研究会のねらい

「議会からの政策サイクル」の構築と作動、豊富化

議会に対する住民の信頼づくり

↓

地方議会評価モデルによる評価を踏まえた改革

↓

住民の福祉の向上につなげる

議会改革の第2ステージ

座長　江藤俊昭教授

日本生産性本部事務局

評価モデルのノウハウの蓄積

人的な直接支援 ↓

↑ プロセスで得られた課題等のフィードバック

飯田市議会

グループ討議・全体会

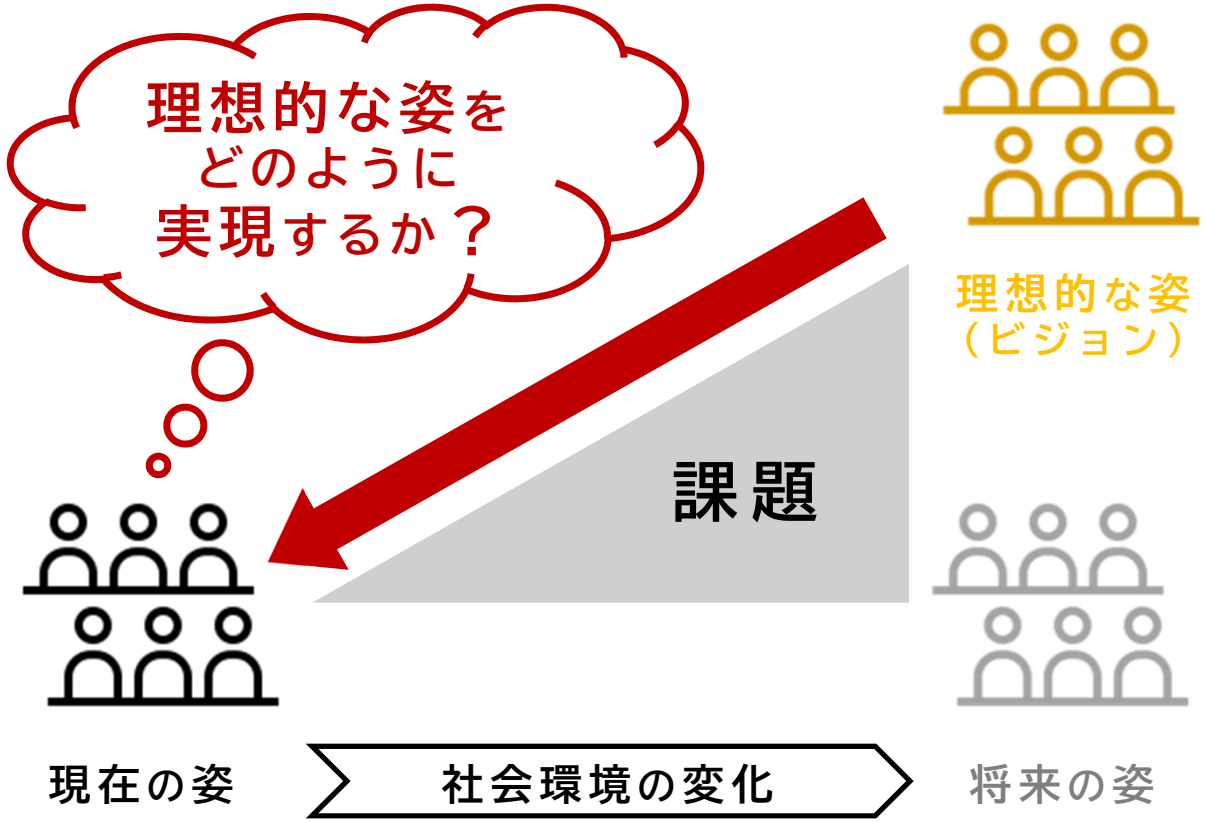
リーダー・サブリーダー会議

研究会の「実装の場」

地方議会評価モデルの取り組み

飯田市議会が「地方議会評価モデル」を通じて目指すこと

- 将来の「理想的な姿」の実現に向けて、これから「取組むべきこと」を考える。



地方議会評価モデルのツール①

「議会プロフィール」を作成し、「自らの議会がどのような議会か」共通認識を得る

➢ 「理想的な姿」（ビジョン）から逆算して、今後の行動（アクション）を考える。

理想的な姿の構想

↓

現状分析

↓

社会環境の変化の想定

↓

課題の抽出

↓

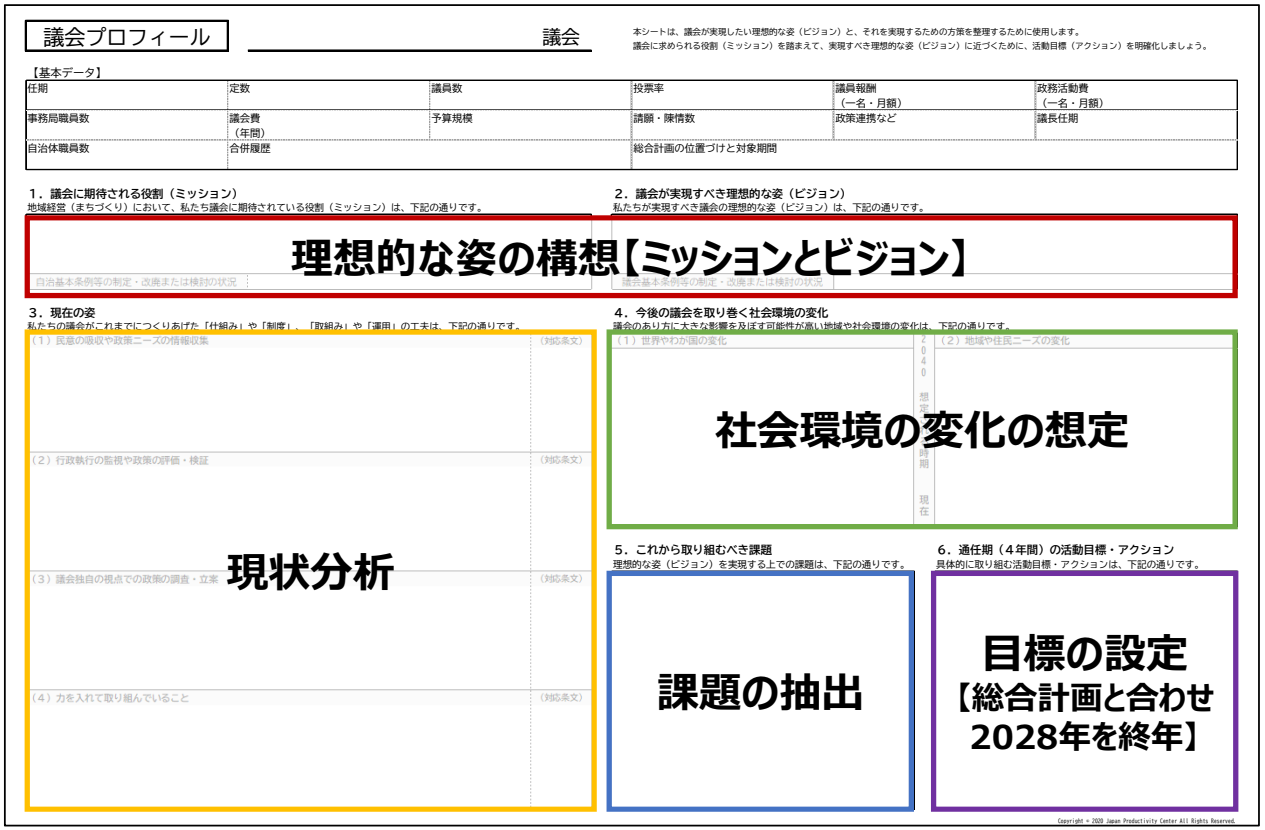
（解決方策の検討）

↓

目標の設定

↓

ロードマップ等の策定



「理想的な姿」を起点にして、取り組むべき課題を導き出し、議会の進む方向性を可視化

地方議会評価モデルのツール②

地方議会評価モデルは、組織のマネジメント（運営）に必要な５つの視点で構成

➢ 組織体のマネジメントの視点（16項目）で現状分析を行うことで、議会運営の改善を促す。

視点１．戦略プラン

理想的な姿の実現に向けた戦略づくりと、その実行のあり方【３項目】

視点２．政策サイクル

住民福祉の向上という価値を創造する議会活動のしくみと、住民とのかかわりのあり方【4項目】

視点３．条件整備

議員や議会事務局が最大限に能力を発揮するための基盤づくりのあり方【3項目】

視点４．信頼と責任

社会的責任や、議決に対する説明責任のあり方【4項目】

視点５．ふり返りと学び

活動のふり返りや、気づきからの学びのあり方【2項目】